

## アジア・太平洋の米軍基地

福好 昌治

1. はじめに
2. ハワイの米軍基地
3. 在日米軍基地
4. 在韓米軍基地
5. グァム、東南アジアの米軍基地
6. 結言

キーワード：在日米軍基地、在韓米軍基地、  
ハワイの米軍基地

### 1. はじめに

筆者は本誌24号で米太平洋軍の作戦行動について、本誌26号でアジア・太平洋地域における米軍の演習について、くわしく解説した。在韓米軍の作戦計画と演習についても、本誌28号で分析した。作戦を効果的に遂行するには、戦場と後方地域の両方に、部隊の展開を支援する基地が必要になる。有事を想定した演習の際にも、基地が拠点になる。

このように米軍の動向を分析するうえで、基地に関する調査・分析は欠かせない。そこで、今回は、米太平洋軍の担当地域であるアジア・太平洋には、どこに、どのような米軍基地があり、いかなる機能を果たしているのか——という点について考察する。

アジア・太平洋の米軍基地は、主として日本、

韓国、ハワイにある。このうちハワイには米太平洋軍の上級司令部が集中しており、米軍が東アジアで作戦する場合にも、上級指揮機関としての役割を果たしている。ハワイは地理的には、本誌のカバー範囲である東アジアには含まれないが、東アジアの安全保障を考えるうえで、ハワイの米軍基地の役割を無視するわけにはいかない。しかも、ハワイの米軍基地について書かれた日本語文献は皆無に近い。そのため、本稿では、ハワイの米軍基地について、ややくわしく紹介してみる。

その一方で、在日米軍基地については、本誌13号（96年7月発行）に「冷戦後の在日米軍基地」という論文を執筆しているので、今回は在日米軍基地を網羅的に記述するのではなく、96年以降の主な変化についてのみ記述する。

### 2. ハワイの米軍基地

ハワイ州はオアフ島、ハワイ島、カウアイ島、モロカイ島、マウイ島、カウラ島等によって構成されているが、基地がもっとも集中しているのは、州都ホノルルのあるオアフ島である。

#### (1) キャンプ・H・M・スミス

米太平洋軍司令部（CINCPAC）はオアフ島のキャンプ・H・M・スミスにある。同司

令部の要員は軍人530人、シビリアン110人。<sup>(1)</sup>

キャンプ・H・M・スミスはパールハーバーに比較的近いハラウ高原にある。ここが基地として開設されたのは、太平洋戦争勃発直後の1941年12月である。その前は砂糖キビ畑だった。当初は海軍病院として開設されたが、その後55年に太平洋艦隊海兵隊の基地となり、57年には米太平洋軍司令部も置かれることになった。<sup>(2)</sup>現在のキャンプ・H・M・スミスの面積は89ヘクタール。<sup>(3)</sup>

米太平洋軍は太平洋艦隊 (Pacific Fleet)、太平洋空軍 (Pacific Air Force)、太平洋陸軍 (Army Pacific)、太平洋海兵隊 (Marine Forces Pacific)、太平洋特殊作戦コマンド (Special Operation Command, Pacific) 等から成るが、このうち太平洋海兵隊司令部と太平洋特殊作戦コマンド司令部がキャンプ・H・M・スミスに置かれている。太平洋海兵隊司令部の要員数は軍人495人、シビリアン30人。太平洋特殊作戦コマンド司令部の要員数は、軍人109人、シビリアン8人。<sup>(4)</sup>

キャンプ・H・M・スミスには、Joint Task Force - Full Accounting (JTF - FA) という組織も置かれている。Accounting という言葉があるからといって、会計科部隊ではない、ベトナム戦争の時に行方不明になった米兵 (MIA, Missing in Action) の捜索を担当している機関である。実態に即して訳すなら、行方不明米兵捜索局となろう。もちろん、米兵の捜索はインドシナ諸国との協力を得ておこなわれているもので、ベトナム、ラオス、カンボジア、

中国に、JTF - FAの現地事務所がある。

JTF - FAが開設されたのは92年のことで、要員数は、軍人150人、シビリアン20人。<sup>(5)</sup>

## (2) パールハーバー海軍基地

ハワイで最大の基地は、オアフ島南部に位置するパールハーバー海軍基地 (Pearl Harbor Naval Complex) だ。

ハワイを訪れる観光客にとって、ここは名所となっている。湾内にはアリゾナ・メモリアル (真珠湾攻撃で撃沈され、湾内に沈んでいる戦艦アリゾナの真上に記念館が建てられている) や潜水艦博物館があり、99年1月には戦艦ミズーリも記念館 (艦) としてオープンした。

しかし、パールハーバーの真の姿はそこにはない。パールハーバーの実像はさまざまな機能を備えた軍事基地なのである。

パールハーバーの陸地部分の面積は3,102ヘクタール、海上部分の面積は2,020ヘクタール。ここには大小合わせて250もの部隊が駐留しており、17,000人の軍人と9,000人のシビリアンが勤務している。ちなみにアリゾナ・メモリアルへ観光客を運ぶ船を運航しているのも海軍だ。パールハーバーの年間経費 (給料、運用費、維持費、住居費等) は21億ドルにのぼる。<sup>(6)</sup>

パールハーバーは大きく4つの地区に分かれる。その一つが海軍基地 (Naval Base) で、パールハーバーを母港とする艦船や寄港した艦船に対する支援をおこなっている。現在、パールハーバーを母港とする艦船は、攻撃型潜水艦18隻、巡洋艦3隻、駆逐艦5隻、フリゲート2

(1) U. S. Pacific Command, *U. S. Pacific Command at a Glance*, pl, n.d.

(2) *ibid.*, p9

(3) USCINCPAC Public Affairs Office, *Hawaii Military Installations and Training Areas*, 1998,

p58

(4) *ibid.*, p58

(5) *op. cit.*, *U. S. Pacific Command at a Glance*, p7

(6) *op. cit.*, *Hawaii Military Installations and Training Areas*, pp35-36

隻、戦車揚陸艦1隻、救難艦2隻である。<sup>(7)</sup>

他はアイエ湾リクレーション・センター (The Aiea Bay Recreation Center)、マカラパ・クレーター (Makalapa Crater)、フォード島 (Ford Island) である。このうちマカラパ・クレーターには、太平洋艦隊司令部や情報機関があり、パールハーバーの中核部分と言えよう。フォード島には軍用住宅等がある。<sup>(8)</sup>

パールハーバーにあるさまざまな部隊の筆頭に位置するのは、太平洋艦隊司令部 (C I N C P A C F L T) である。ここには519人の軍人と230人のシビリアンが勤務している。<sup>(9)</sup>

米海軍は常設のタイプ編成 (軍政系統) と作戦行動時に編成されるタスク編成 (軍令系統) の二重編成になっているが、太平洋艦隊の場合、タイプ編成としては、指揮下に海軍航空部隊司令部、海軍水上艦部隊司令部、潜水艦部隊司令部、艦隊海兵隊司令部、第3海軍建設旅団司令部を置いている。<sup>(10)</sup> このうち海軍水上艦部隊司令部と第3海軍建設旅団が、パールハーバーに置かれている。タスク編成としては、第3艦隊と第7艦隊があるが、それぞれの司令部は旗艦コロナド (母港・サンジェゴ) と旗艦キティホーク (母港・横須賀) にある。

潜水艦部隊司令部は潜水艦に関する人事、訓練、作戦計画立案、兵站計画立案等を担当しており、要員数は軍人291人、シビリアン61人。<sup>(11)</sup>

第3海軍建設旅団司令部は施設建設等を任務

とする部隊の司令部である。

この他、パールハーバーには、次のような部隊が配備されている。<sup>(12)</sup>

- ・太平洋艦隊対潜戦部隊司令部／第12任務部隊司令部

- ・海軍施設工兵コマンド太平洋部

太平洋・インド洋における沿岸支援施設の計画、設計、建設、改築、不動産の取得、施設の維持・運用等を任務とする部隊の上級司令部。要員数は軍人25人、シビリアン589人。<sup>(13)</sup>

- ・パールハーバー海軍基地隊

- ・中部太平洋海軍水上艦群司令部

- ・パールハーバー海軍係留地・暫定整備施設

大規模な艦船修理施設で、4つの乾ドックと3,900mのバースがある。ここには軍人799人とシビリアン3,270人が勤務している。<sup>(14)</sup>

- ・パールハーバー海軍ステーション

- ・公共労働センター

- ・艦隊産業補給センター

- ・海軍歯科センター

- ・海軍病院

- ・海軍法務室太平洋分室

- ・中部太平洋洋上訓練群

- ・太平洋統合情報センター (J I C P A C)

太平洋艦隊ではなく、太平洋軍司令部の直轄下にある情報本部である。<sup>(15)</sup>

- ・太平洋海軍潜水艦訓練センター

- ・海軍環境・予防医学局

(7)「主要基地と在籍艦艇」『世界の艦船』、2000年1月、183ページ

(8)op. cit., *Hawaii Military Installations and Training Areas*, p35

(9)ibid., p18

(10)Pacific Fleet Public Affairs Office, *Commander in Chief U. S. Pacific Organization*, April 20 1999

(11)op. cit., *Hawaii Military Installations and*

*Training Areas*, p27

(12)ibid., p36

(13)ibid., p30

(14)ibid., p37

(15)くわしくは福好昌治「在日米軍秘密部隊総まくり」『日出づる国の米軍』、メディアワークス、1998年、127～133ページを参照されたい。

### (3) その他の海軍基地

もちろん、海軍基地があるのはパールハーバーだけではない。オアフ島には、以下のような海軍基地がある。<sup>(16)</sup>

- ・太平洋海軍コンピューター・通信地域マスター・ステーション
- ・ルアルアレイ海軍送信所
- ・ルアルアレイ海軍弾薬庫（ウエスト・ホッチとワイキリに支所がある）
- ・マナナ住宅地区
- ・マナナ弾薬庫
- ・レッド・ヒル燃料貯蔵庫

オアフ島以外では、カウワイ島の西側に、パーキング・サンズ太平洋ミサイル射撃場がある。沖合が広大な演習海空域になっており、ミサイル等の実弾射撃ができる。陸地部分には1,800mの滑走路の他、住宅、リクレーション施設、通信所もある。<sup>(17)</sup> ここは貴重な演習場で、海上自衛隊も実弾射撃訓練のため、ここを利用している。

なお、99年7月までは、パールハーバーの西にハーバーズ・ポイント海軍航空基地というP-3C哨戒機の基地があったが、現在は閉鎖されており、P-3Cはオアフ島のカネオヘ・ベイ海兵航空基地に移っている。<sup>(18)</sup>

### (4) 空軍基地

太平洋空軍司令部はヒッカム空軍基地にある。同基地はパールハーバーの東隣の高台に位置す

る軍民共用空港だ。観光客にはホノルル国際空港として、よく知られている。パールハーバー内の水上艦と潜水艦（湾内は浮上して航行する）を区別できるまでに、飛行機の高度が下がってくると、直後にホノルル空港に到着だ。

ヒッカム空軍基地は1938年に開設された。広さは1,117ヘクタールで、滑走路が4本もある。ここには4,592人の軍人と1,285人のシビリアンが勤務している。<sup>(19)</sup> このうち太平洋空軍司令部の要員数は軍人673人、シビリアン210人となっている。<sup>(20)</sup>

太平洋空軍は第5空軍（日本）、第7空軍（韓国）、第11空軍（アラスカ）、第13空軍（グァム）、第15航空基地団（Air Base Wing）に大きく分かれるが、このうち第15航空基地団がヒッカムに配備されている。<sup>(21)</sup> 同基地団の任務は同基地に配備されている部隊に対する支援と、高級将校の輸送である。要員数は軍人1,821人、シビリアン854人。<sup>(22)</sup> 所属航空機はC-135輸送機2機。<sup>(23)</sup>

この他、ヒッカム空軍基地には、ハワイを通過する航空機に対する支援を担当している第635航空機動支援中隊（軍人335人、シビリアン108人）と第324情報隊（軍人479人、シビリアン1人）も配備されている。後者はクニア地域信号情報（SIGINT）作戦センターを運用している。<sup>(24)</sup>

オアフ島西端には、カエナ・ポイント衛星追跡ステーションがある。ここには第22宇宙作戦

(16) op. cit., *Hawaii Military Installations and Training Areas*, p8, p39

(17) ibid., p38

(18) Facts and Figures, *Seapower*, January 2000, p93

(19) USAF Almanac: Guide to Air Force Installations Worldwide, *Air Force Magazine*, May 2000, p119

(20) op. cit., *Hawaii Military Installations and*

*Training Areas*, p63

(21) op. cit., *Air Force Magazine*, p98

(22) op. cit., *Hawaii Military Installations and Training Areas*, p63

(23) HQ, Pacific Air Force, *History of Pacific Air Forces 1 January -31 December 1997, 1999*, p247

(24) op. cit., *Hawaii Military Installations and Training Areas*, pp63-64

隊第4分遣隊が配備されており、GPS（全世界位置決定システム）モニター・ステーションを運用している。要員数は軍人4人、シビリアン19人。

マウイ島の山頂には、マウイ衛星追跡ステーションが設置されている。ここには第18宇宙監視隊第3分遣隊が配備されており、他国の衛星だけでなく、宇宙にあるあらゆる物体の監視をおこなっている。任務についているのは軍人14人と米軍と契約した民間人150人だ。<sup>(25)</sup>

ハワイにあるその他の空軍基地には、以下のようなものがある。<sup>(26)</sup>

- ・ペローズ空軍基地 オアフ島の東側にあり、元は空軍の通信所だったが、現在は海兵隊の訓練場ならびにハワイ在住者のリクリーション施設として使用されている。
- ・エフ通信所 オアフ島の西側にあり、連邦航空局の所有地であるが、空軍の第30宇宙航空団が短波用のアンテナを設置している。
- ・カアラ・レーダー・サイト（オアフ島）
- ・コッキー・レーダー・サイト（マウイ島）
- ・マクア海底ケーブル・サイト オアフ島の西側にあり、オアフ島と南太平洋のジョンストン島をつなぐ海底ケーブルを運用している。
- ・モロカイ短波受信所（モロカイ島）

#### (5) 陸軍駐屯地

太平洋陸軍司令部はフォート・シャフターにある。同司令部の要員数は軍人223人、シビリアン330人。<sup>(27)</sup>

フォート・シャフターは1907年に開設された

古い駐屯地だ。場所はオアフ島の南部で、ホノルルの近くだ。面積は567ヘクタール。<sup>(28)</sup> ここには後方支援を担当している第9地域支援コマンドと陸軍工兵軍団太平洋師団も配備されている。<sup>(29)</sup>

ハワイの陸軍駐屯地で最大のものは、スコーフールド・バラックスだ。バラックスと名がついていても、現在は単なる兵舎ではない。ここが開設されたのは1908年と古い。場所はオアフ島のやや西側で、面積は5,666ヘクタール。この中には東射撃訓練場も含まれる。スコーフールド・バラックスに勤務している軍人は12,156人、シビリアンは5,739人。<sup>(30)</sup>

スコーフールド・バラックスに駐屯している主力部隊は、陸軍第25軽歩兵師団である。同師団は第1、2、3旅団から成るが、このうち第1旅団だけは、米本土ワシントン州のフォート・ルイスに駐屯している。この他、スコーフールド・バラックスには、海外に展開する部隊に対する後方支援等を担当する第45軍団支援群や在ハワイ陸軍に対する支援を担当するハワイ陸軍基地隊も駐屯している。<sup>(31)</sup>

この他、ハワイには以下のような駐屯地がある。<sup>(32)</sup>

- ・アリアマウ・ミリタリー・リザーベーション  
オアフ島南部にある陸軍、海軍、海兵隊用の住宅地区
- ・フォート・デルーシー ワイキキ・ビーチにあるリクリーション・センター
- ・ヘレマノ・ミリタリー・リザーベーション  
オアフ島中部にあるリクリーション・センター

(25) *ibid.*, p67

(26) *ibid.*, pp66-67

(27) *ibid.*, p43

(28) U. S. Army Posts and Installations, *Army*, October 1999, p255

(29) *op. cit.*, *Hawaii Military Installations and*

*Training Areas*, p43

(30) *op. cit.*, *Army*, p255

(31) *ibid.*, p235

(32) *op. cit.*, *Hawaii Military Installations and Training Areas*, pp41-50

・キラエア・ミリタリー・キャンプ ハワイ島の国立公園内にあるリクレーション・センター  
・トリプラー陸軍医療センター（オアフ島南部）  
・ホイラー陸軍飛行場 オアフ島中部にある第25歩兵師団と在ハワイ陸軍州兵所属ヘリ用の飛行場。

・ディリングハム飛行場 オアフ島西部にある第25歩兵師団所属航空機用の飛行場。小規模な訓練にも使われている。

ハワイには陸軍の演習場もたくさんある。代表的なのが、ハワイ島にあるポハクロア演習場だ。面積は44,028ヘクタールと広大で、一時期陸上自衛隊も使用していたことがある。この他、オアフ島には、カフク演習場、カワイロア演習場、マクアバレー演習場がある。<sup>(33)</sup>

以上の他に、米太平洋軍が発行しているハワイの基地ガイドの中の「その他の陸軍」という項目に、注目すべき記述がある。スコーフールド・バラックスの南にクニア・ファシリティという14ヘクタールの駐屯地があり、そこのトンネル・コンプレックスを国家安全保障局（NSA）が利用している、と明記されているのだ。<sup>(34)</sup> ここには、クニア地域信号情報（SIGINT）作戦センターがあり、空軍の第324情報隊によって運用されている。<sup>(35)</sup>

#### (6) 海兵隊基地

太平洋海兵隊司令部の所在するキャンプ・H・M・スミスについては、すでに述べた。

ハワイにある代表的な海兵隊基地は、オアフ島東部にあるカネオヘ・ベイ海兵隊基地だ。同

基地の面積は1,194ヘクタールで、2,330mの滑走路がある。勤務しているのは軍人6,972人とシビリアン520人。<sup>(36)</sup>

カネオヘ・ベイに配備されている陸上部隊は第3海兵連隊（3個大隊）、第12海兵連隊第1大隊、第3後方支援群、第1通信大隊で、航空部隊は第362、363、366、463大型ヘリ飛行隊等だ。<sup>(37)</sup> 加えて、前述したように、現在は海軍のP-3C哨戒機も配備されている。

この他、オアフ島南部に、プウロア訓練場があり、小銃等の射撃訓練に使用されている。<sup>(38)</sup>

#### (7) アジア太平洋安全保障研究センター

以上の他に、いわゆる基地ではないが、重要な機関がハワイにあるので、紹介しておく。それは米太平洋軍直轄のアジア太平洋安全保障研究センター（Asia-Pacific Center for Security Studies）である。同センターが設立されたのは95年で、ホノルルのワイキキ・トレード・センターの3フロアを利用している。研究・教育を通じて、米太平洋軍とアジア・太平洋地域諸国軍との友好関係を構築するというのが、同センター設立の目的だ。<sup>(39)</sup>

アジア太平洋安全保障研究センターは安全保障研究大学、研究部、会議部の3つから構成されている。安全保障研究大学には、アジア太平洋諸国から将来のリーダーと期待される上級将校や政府の官僚が派遣されてくる。ここで12週間、安全保障に関する教育を受けるのだ。会議部は年8回の国際会議／セミナーを開催している。<sup>(40)</sup>

(33) *ibid.*, pp52-55

(34) *ibid.*, p56

(35) *ibid.*, p64

(36) *ibid.*, p60

(37) *Almanac 2000, Marines* (U. S. Marine Corps Official Magazine), December 1999, p16-17

(38) *op. cit.*, *Hawaii Military Installations and Training Areas*, p61

(39) *Asia-Pacific Center for Security Studies* (アジア太平洋安全保障研究センターのリーフレット)

(40) *ibid.*,

### 3. 在日米軍基地

#### (1) 沖縄の海兵隊

米海兵隊は大きく米本土西海岸の第1海兵遠征軍（ⅠMEF）、米本土東海岸の第2海兵遠征軍（ⅡMEF）、沖縄の第3海兵遠征軍（ⅢMEF）の3つに分かれる。ⅢMEFの兵力数に大きな変化はないが、97年7月、ⅢMEF司令官の階級が小将から中將に格上げされた。この措置について、沖縄重視という指摘<sup>(41)</sup>もあるが、米海兵隊は1997会計年度国防権限法にもとづいて、12の將軍（大將～准將）ポストを新設しており、<sup>(42)</sup> 単純に沖縄重視とは言えない。

編成の面で変化があったのは、偵察部隊である。90年代の前半、ⅢMEF司令部の直轄下に第3偵察監視情報群（SRIG）が置かれていたが、現在はそれに代わり、第5偵察大隊（5th Force Reconnaissance Battalion、通称リーコン）が、ⅢMEFの地上部隊である第3海兵師団内に編成されている。

ただし、米海兵隊の機関誌『マリーン』に毎年掲載されている部隊リストを見ると、99年版では<sup>(43)</sup>第5偵察中隊となっており、2000年版では大隊となっている。<sup>(44)</sup> 99年に中隊から大隊に格上げされたようだ。

偵察中隊の定数は167人。<sup>(45)</sup> 大隊については海兵隊の編制マニュアルに書かれていないが、第5偵察大隊の兵員数は約250人のようだ。<sup>(46)</sup>

ⅠMEFには第1偵察中隊が、ⅡMEFには第2偵察大隊が配備されている。<sup>(47)</sup>

偵察大隊は上陸予定地域の事前偵察等を任務とする精鋭部隊で、海兵隊の“特殊部隊”的な性格をもつ。訓練は沖縄だけでなく海外でも頻繁におこなわれている。その様子が沖縄海兵隊の機関紙『オキナワ・マリーン』にたびたび掲載されている。たとえば、99年11月には、グアムのアンダーセン基地で、高高度降下・高高度開傘（HAHO）方式のパラシュート降下訓練を実施している。<sup>(48)</sup> 2000年4月には韓国で韓国軍第1海兵師団特殊偵察大隊と共同訓練をおこなっている。<sup>(49)</sup> アラスカで積雪寒冷地訓練を実施したこともある。<sup>(50)</sup>

第5偵察大隊が沖縄でよく使用している訓練場は、ジャングル戦訓練センター（Jungle Warfare Training Center）だ。98年3月にNorthern Training Area（北部訓練場）から、より実態を表す現在の名称に変わった（ただし、日本側の名称は現在も北部訓練場のまま）。ここでは42人の米軍人が訓練の支援に従事している。<sup>(51)</sup>

ジャングル戦訓練センターで訓練を受けるのは、なにも第5偵察大隊だけではない。ⅢMEF所属の後方支援部隊や司令部要員も対象になる。訓練の内容は陸上航法（磁石と地図を使って樹海の中を移動すること）、水や食糧の確保、敵の探知を回避する方法の習得等だ。<sup>(52)</sup>

2000年1月には、沖縄に第3海兵遠征旅団

(41)『琉球新報』、1997年7月19日

(42) General Accounting Office (GAO), *General and Flag Officers: Number Required Is Unclear Based on DoD's Draft Report*, 1997, p1

(43) Almanac 1999, *Marine*, February 1999, p17

(44) op. cit., *Marine*, December 1999, p16

(45) HQ, United States Marine Corps, *MCRP 5-12D, Organization of Marine Corps Forces*, 1998, p6-19

(46) NHK沖縄放送局編『“隣人”の素顔』、NHK出版、2000年、76ページ

(47) op. cit., *Marine*, p12, p15

(48) *Okinawa Marine*, December 3 1999

(49) *Okinawa Marine*, April 21 2000

(50) *Okinawa Marine*, March 13 1998

(51) *Okinawa Marine*, March 27 1998

(52) *Okinawa Marine*, December 10 1999

(MEB) 司令部が編成された。<sup>(53)</sup> これに関して地元紙には「オスプレイ配備などの緊急展開能力の向上を見据えたもの」といった見当違いの記事<sup>(54)</sup>が書かれているが、そうではない。92年頃まで、米本土や沖縄、ハワイにMEB司令部が常設されていたが、その後は廃止され、MEBクラス(14,000人程度)の部隊を派遣する場合には、MEF(フォワード)という名称で司令部を設置することになっていた。しかし、この方式は海兵隊内部でもわかりにくかったようで、99年の終わり頃から、順次、IMEF隷下にIMEB司令部、II MEF隷下にII MEB司令部を常設することになったのである。<sup>(55)</sup> III MEB司令部はIII MEF司令部内(キャンプ・コートニー)に編成されており、兵員数も変わっていないようなので、同じ人間が両方の司令部要員を兼務しているのであろう。

## (2) 三沢基地

米空軍は99年10月から、航空遠征軍(AEF, Aerospace Expeditionary Forces)という運用方式を正式に開始した。AEFは様々な基地に配備されている戦闘機、爆撃機、輸送機等を1つのパッケージにして、中東等に派遣する、というシステムだ。AEFは作戦行動の際にそのつど編成され、固定的なものではない。AEFは3か月の派遣期間、9か月の休息および通常の訓練・演習期間、3か月の派遣に備えた準備

期間の15か月を1サイクルとしている。原則として2つのAEFが3か月ごとに、別の個所に派遣される(AEF 1、2だけは派遣期間が2か月)。<sup>(56)</sup>

すでにAEF 1~10の編成が決まっており、三沢基地の飛行隊もこの中に組み込まれている。AEF 5(派遣期間2000年3~5月)の中に、三沢基地の第14飛行隊(F-16戦闘機18機)が、AEF 7(派遣期間2000年6~8月)の中に、同基地の第13飛行隊(F-16戦闘機18機)が含まれている。<sup>(57)</sup>

三沢基地には空軍だけでなく、海軍のP-3C哨戒機も配備されている。これはハワイのカネオヘ基地から6か月のローテーションで派遣されてくるもので、2000年12月に、第47哨戒飛行隊(VP-47、360人、10機)から、第9哨戒隊(VP-9)に交替した。<sup>(58)</sup>

三沢基地は情報部隊の基地としても知られている。通信傍受を担当している第301情報隊(301st Intelligence Squadron)と宇宙監視を担当している第3宇宙監視隊(3d Space Surveillance Squadron)の存在については、すでに判明しているが、<sup>(59)</sup>第18情報隊第3分遣隊の存在も明らかになった。三沢基地の新聞『ノーザン・ライト』に掲載されている部隊別昇進者リストの中に、その部隊名が出てくるのだ。<sup>(60)</sup>

そこには部隊名以外に何の説明もないが、第18情報隊は空軍の航空情報局(AIA, Air

(53)『赤旗』、2000年6月9日

(54)『琉球新報』、2000年4月18日

(55) Return of the MEB: A Most Expeditionary Bunch of Marine, *Marine*, April-June 2000, pp16-18

(56) *U. S. Air Force Posture Statement 2000*, 2000, pp29-31

(57) Glenn W. Goodman Jr., Pursuing Predictability, *Armed Forces Journal*, February 2000, pp52-56

(58) Misawa Base Newspaper, *Northern Light*, December 3 1999

(59) くわしくは福好昌治「北朝鮮をにらむ米軍・自衛隊の情報活動」『東アジア研究』第9号、1995年6月、55~57ページと、福好昌治「冷戦後の在日米軍基地」『東アジア研究』第13号、1996年7月、11ページを参照されたい。

(60) *Northern Light*, August 20 1999, September 3 1999

Intelligence Agency) の第544情報群に所属する部隊だ。<sup>(61)</sup> A I A の資料によると、第18情報隊は93年に編成された部隊で、空軍宇宙コマンド (A F S P C) に対する情報支援を担当しているとしか書かれていないが、<sup>(62)</sup> 宇宙監視隊を支援する部隊のようだ。<sup>(63)</sup>

### (3) 嘉手納基地

嘉手納基地の第18航空団の戦闘機部隊 (F-15戦闘機) は1999年11月に、3個飛行隊から2個飛行隊に減った。ただし、1個飛行隊の定数は18機から24機に増えた。<sup>(64)</sup> この2個飛行隊もA E Fの中に組み込まれている。第44飛行隊がA E F 5に、第67飛行隊がA E F 7に配属されているのだ。<sup>(65)</sup>

嘉手納基地には、F-15戦闘機だけでなく、さまざまな航空機が配備されている。それらは次のとおり。<sup>(66)</sup>

- ・ E-3 早期警戒管制機 (A W A C S) 2機
- 中南米の麻薬取締活動 (空からの監視) にも派遣されている。
- ・ K C-135 空中給油機 15機
- ・ M C-130 特殊作戦機 10機
- ・ R C-135 電子偵察機 1~2機
- ・ P-3 哨戒機 3-10機 嘉手納には三沢に派遣されてくる飛行隊の分遣隊が展開してくるので、実際にいる機数は3機のほうに近い。
- ・ H H-60 救難ヘリ 9機
- ・ C-130 輸送機 1機

- ・ C-12 輸送機 2機

### (4) 横須賀基地

横須賀基地を母港とする艦船もかなり変わった。97年6月、フリゲート・カーツの代わりに駆逐艦ジョン・S・マケインが配備された。同年8月には、駆逐艦ヒューイットに代わり、巡洋艦ビンセンズが、同年9月にはフリゲート・マクラスキーに代わり、駆逐艦カーチス・ウィルバーが配備された。98年3月には、駆逐艦ファイブと駆逐艦カッシング、フリゲート・ロッドニー・M・デービスとフリゲート・バンデクリフトが交替。空母も98年8月にインディペンデンスからキティホークに代わった。同じ月に、巡洋艦バンカーヒルと巡洋艦チャンセラーズ・ビルも交替。

さらに、2000年6月、巡洋艦モービルベイが巡洋艦カウペンスに代わった。この際にモービルベイの乗員とカウペンスの乗員がそっくり入れ替わった。<sup>(67)</sup> つまり所属する艦船が代わっても、乗員の横須賀在住は変わらない、ということだ。この方式をクルー・スワップというが、これは経費節減と乗員の単身赴任を減らすための措置だ。

横須賀基地には海軍部隊だけでなく、海兵隊の対テロ警備チーム (F A S T, Anti-Terrorism Security Team) も配備されている。F A S T は海軍作戦部長の直轄下にあり、全体で2個中隊、11個小隊の編成になっている。横

(61) Jeffrey T. Richelson, *The U. S. Intelligence Community*, Westview, 1999, pp92-93

(62) Air Intelligence Agency, *USAF Fact Sheet 95-10*, Air Intelligence Agency, n. d.

(63) op. cit., *The U. S. Intelligence Community*, pp251-251

(64) *Pacific Stars and Stripes*, November 4 1999

(65) op. cit., *Armed Forces Journal*, pp52-56

(66) 18th Wing Public Affairs Office, *Kadena Mis-*

*sion*, この資料の中で、M C-130の機数について、9機としている個所と10機としている個所がある。どちらが正しいのか、嘉手納基地報道部に問い合わせたところ、10機が正しいという回答を得た。また、同資料の日付は1998年4月9日になっているが、実際にはその後の改編もフォローされているので、2000年7月段階のデータと見なしさしつかえない。

(67) *Pacific Stars and Stripes*, July 26 2000

須賀には6か月交替で1個小隊が派遣されてくる。<sup>(68)</sup>

#### (5) 佐世保基地

佐世保を母港とする艦船もかなり変化した。96年2月に掃海艦ガーディアンと同パトリオットが新たに配備された。99年6月にはドック型揚陸輸送艦ダビュークに代わって、ドック型揚陸輸送艦ジュノーが配備された。救難艦セーフガードも同年7月から、佐世保を母港にしている。

2000年7月には強襲揚陸艦ベローウッドに代わって、強襲揚陸艦エセックスが配備された。エセックスは92年就役の新鋭艦で、L C A C (エア・クッション型揚陸艇) を3隻搭載している (ベローウッドは0)。ヘリの搭載数もベローウッドのCH-46D/E中型ヘリ26機ないしCH-53D大型ヘリ19機に対し、CH-46D/E中型ヘリ42機へ増える。<sup>(69)</sup> それだけ上陸作戦能力が向上するわけだ。ベローウッドとエセックスの交替もクルー・スワップ方式でおこなわれた。<sup>(70)</sup>

#### (6) 浜松基地も日米共同使用基地になったのか?

浜松基地は航空自衛隊の専用基地で、日米共同使用基地ではない。防衛施設庁が衆議院予算委員会に提出している資料<sup>(71)</sup>を見ても、日米共同使用基地のリストの中に浜松基地はない。

ところが、筆者が米情報公開法を使って入手した『米太平洋空軍年次業務報告』(1997年版、

極秘指定解除文書) に不可解な記述があった。「(97年) 8月15日、浜松基地に第5空軍オペレーティング・ロケーション (OL) Aを編成した」と書かれているのだ。同報告書に収録されている米太平洋空軍の編制表を見ると、OL・Aは第5空軍 (司令部・横田) の直轄下にある。<sup>(72)</sup> OLというのは分遣隊より小さな規模の部隊のことだ (連絡将校=L Oではない)。

書かれているのはこれだけだが、おそらく航空自衛隊による浜松基地へのE-767早期警戒管制機の運用準備を支援する部隊 (教育部隊) ではなかろうか。自衛隊が米国製の装備を新たに運用する場合には、米軍の支援が必要になるからだ。そうだとすると、浜松基地はなぜ日米共同使用基地になっていないのだろうか。米軍は専用の部屋をもたず、自衛官と共用の部屋で仕事をしているだけなのであろうか。

### 4. 在韓米軍基地

#### (1) 龍山基地

在韓米軍司令部はソウルの龍山におかれている。ここはかつて旧日本軍の朝鮮軍司令部だったところだ。龍山基地は562ヘクタールの広さで、米韓連合軍司令部、米陸軍第8軍司令部、在韩国連軍司令部、第34地域支援群、第227整備大隊等も駐留している。<sup>(73)</sup>

#### (2) 陸軍基地

在韓米軍の主力は陸軍だ。その中核は第2歩

(68) HQ U. S. Marine Corps Programs and Resources Department, *United States Marine Corps Concepts & Issues 2000*, 2000, p88, p257

(69) *Jane's Fighting Ships 1999-2000*, Jane's Information Group, 1999, pp822-824

(70) *Pacific Stars and Stripes*, July 15 2000

(71) 防衛施設庁『衆議院予算委員会要求資料』、2000年

版、58～63ページ

(72) HQ Pacific Air Force, *History of Pacific Air Forces 1 January 1997-31 December 1997*, 1999, p19, p209

(73) William R. Evinger, *Directory of U. S. Military Bases Worldwide*, ORYX Press, 1998, p280

兵師団である。同師団司令部は議政府のキャンプ・レッド・クラウドにある。同師団には3個の歩兵旅団が配属されているが、このうち第1旅団が東豆川のキャンプ・ケーシーに、第2旅団が東豆川のキャンプ・フーバーにある。第3旅団だけは米本土ワシントン州のフォート・ルイスに駐屯している。<sup>(74)</sup> その他の主要陸軍基地には以下のようなものがある。<sup>(75)</sup>

・キャンプ・キャロル 大邱の近郊にあり、米陸軍物資支援センター等がある。

・キャンプ・ケーシー ここは面積1,411ヘクタールという大きな基地で、前出の第2歩兵師団第1旅団のほかに、第2歩兵師団隷下の師団支援コマンド等が駐屯している。

・キャンプ・キャッスル 東豆川にあり、第2工兵大隊等が駐屯している。

・キャンプ・エドワーズ ソウルの北方、非武装地帯から8kmの位置にあり、第82工兵中隊等が駐屯している。

・キャンプ・エセヤンズ 議政府にあり、第102軍事情報大隊等が駐屯している。

・キャンプ・ゲリー・オーエン 汶山にあり、第7騎兵（空中機動）連隊等が駐屯している。

・キャンプ・グリーブス 汶山にあり、第506歩兵連隊第1大隊等が駐屯している。

・キャンプ・ヘンリー 大邱にあり、第20地域支援群等が駐屯している。

・キャンプ・ヒアリー 釜山の8km北にあり、第20支援群等が駐屯している。

・キャンプ・ハンフリー 平沢にあり、第23地域支援群等が駐屯している。

・キャンプ・ラガーディア 議政府にあり、第50工兵中隊等が駐屯している。

・キャンプ・ロング 大田にあり、第304通信大隊等が駐屯している。

・キャンプ・ニンブル 東豆山にあり、第702主要支援大隊等が駐屯している。

・キャンプ・ペイジ 春川にあり、第2航空連隊第1大隊等が駐屯している。

・キャンプ・スタンレー 議政府にあり、師団砲兵連隊等が駐屯している。

・キャンプ・ウォーカー 大邱にあり、第19戦域支援コマンド司令部、第36通信大隊等が駐屯している。

・ゾエッカー・ステーション 平沢にあり、第751軍事情報大隊等が駐屯している。

### (3) 空軍と海軍の基地

朝鮮半島を担当地域とする第7空軍の司令部は、ソウルの南61kmの烏山基地にある。開設されたのは52年で、面積は677ヘクタール。2,700mの滑走路がある。要員数は軍人6,528人、シビリアン223人。<sup>(76)</sup>

烏山基地のホスト部隊は第51戦闘航空団で、保有機はF-16戦闘機24機、A-10攻撃機6機、OA-10観測機12機、C-12J輸送機2機。さらに、テナント部隊として、U-2戦略偵察機を運用している第5偵察飛行隊、MH-53J特殊作戦ヘリを運用している第31特殊作戦飛行隊、HH-60G救難ヘリを運用している第33救難飛行隊等も配備されている。<sup>(77)</sup>

韓国西部にある群山基地も、主要な空軍基地として特筆される。ここはもともと38年に旧日本軍が開設した基地だ。面積は1,034ヘクタールで、2,700mの滑走路がある。要員数は軍人2,511人、シビリアン48人。ホスト部隊は第8戦

(74) op. cit., *Army*, p235

(75) op. cit., *Directory of U. S. Military Bases Worldwide*, pp274-281

(76) op. cit., *Air Force Magazine*, p125

(77) ibid., p125

闘航空団で、その隷下には第35飛行隊（F-16C/D戦闘機24機）と第80飛行隊（F-16C/D戦闘機24機）がある。この他にテナント部隊として、陸軍の第143防空砲兵連隊第1大隊E/F中隊、在韓米陸軍契約コマンド等が駐屯している。<sup>(78)</sup>

海軍と海兵隊は韓国には支援部隊しか配備していない。主要基地としては、朝鮮半島の南端に位置する鎮海基地があるだけだ。ただし、歴史は古く19世紀末に帝制ロシアによって開設され、日露戦争後、旧日本軍の基地となった。米軍がここを使用するようになったのは、52年からだ。鎮海基地を管理しているのは鎮海基地隊で、同基地に配備されているのは、在韓米海軍司令部、米韓連合軍海軍構成軍司令部、国連軍海軍構成軍司令部等だ。鎮海基地は韓国海軍艦船の母港でもあり、韓国海軍兵学校もここにある。<sup>(79)</sup>

## 5. グァム、東南アジアの米軍基地

ハワイ、日本、韓国以外のアジア・太平洋（オーストラリア、ニュージーランドを除く）にも、米軍基地がいくつか存在する。

### (1) グァムの米軍基地

グァムにある最大の米軍基地は、同島の北側にあるアンダーセン空軍基地だ。太平洋戦争中の1945年に米軍によって開設された。8,203ヘクタールの面積をもつ広大な基地で、3,166mと3,354mの滑走路がある。90年までは第60爆撃飛行隊（B-52戦略爆撃機14機）が配備され

ていたが、現在は、米本土から戦略爆撃機がときどき飛来してくるだけだ（これはグローバル・パワー・ミッションと呼ばれている）。

現在、アンダーセン基地には、太平洋空軍第13空軍の司令部がある。同司令部はフィリピン・クラーク基地の閉鎖にともなって、91年に移駐してきたものだ。クラーク基地に第13空軍司令部があった時は、その隷下にF-4戦闘機を配備していたが、アンダーセン移駐後は、司令部だけで所属航空機はない。第13空軍の隷下にある部隊は第36航空基地団で、アンダーセン基地を管理している。<sup>(80)</sup>

その他に、アンダーセン基地には、第22宇宙作戦隊第5分遣隊、第634航空機動飛行隊、第5ヘリ戦闘支援隊（海軍）も配備されている。基地の要員数は軍人2,481人、シビリアン1,241人。<sup>(81)</sup> グァム島周辺は訓練空域としても活用されており、99年から航空自衛隊も米空軍とともに日米共同演習「コープ・ノース・グァム」を同空域で実施している。

グァム島西部のアプラ軍港（グァム海軍ステーション）には、在マリアナ米海軍司令部、第3海上事前集積船隊、第5爆発物移動処理隊グァム分遣隊、海軍コンピューター遠隔通信地域マスター・ステーション等が配備されている。要員数は軍人8,700人、シビリアン6,500人。その他、グァム島の南部には海軍弾薬庫もある。<sup>(82)</sup>

### (2) シンガポールの米軍基地

小さな都市国家シンガポールにも、米軍基地が2つある。パヤレバー空軍基地とセンバワン軍港だ。パヤレバー空軍基地には、第497戦闘

(78) ibid., p122

(79) op cit., *Directory of U. S. Military Bases Worldwide*, p273

(80) Pacific Air Force, *Air Force Magazine*, May

2000, p99

(81) ibid., p116

(82) op. cit., *Directory of U. S. Military Bases Worldwide*, pp262-263

訓練隊が配備されており、同基地を拠点としておこなわれる戦闘機等の訓練を支援している。同訓練隊は第13空軍の隷下にあり、所属機はない。<sup>(83)</sup>

センバワン軍港には、西太平洋兵站群(Logistics Group Western Pacific)が配備されており、寄港してくる第7艦隊の艦船に対する後方支援をおこなっている。同兵站群も92年にフィリピン・スービック基地から移駐したものだ。<sup>(84)</sup>

### (3) タイの米軍

タイ北部のチェンマイに、空軍技術適用センター第415分遣隊がある。核実験にともなう地震波の探知を目的として、62年に開設された。要員数はわずか4人。<sup>(85)</sup>

### (4) 香港の米軍基地

香港は米第7艦隊の寄港地として利用されており、艦船支援室がここにある。要員は軍人7人、シビリアン9人。<sup>(86)</sup> 米艦船の寄港は、中国への返還後も続いている。

## 6. 結言

90年初頭まで、米太平洋軍の基地は主に日本、韓国、ハワイ、フィリピン、グアムにあった。ところが、92年にフィリピンの米軍基地が完全に閉鎖され、グアムの基地機能も90年代初頭から著しく低下した。グアム・東南アジアにおける基地機能がかなりスケールダウンしたのである。

その反面、在日米軍基地の機能がかなり変わった。在日米軍基地に配備されている部隊は、北東アジアのみならず中東にも出動するようになったのだ。<sup>(87)</sup>

在韓米軍基地の北朝鮮対処という機能は、まだ変わっていない。在韓米軍基地は最前線基地なのだ。これに対し、在日米軍基地は前方展開部隊の戦略拠点と位置づけられる。ハワイの米軍基地は、アジア・太平洋全体をにらんだ司令部機能を果たしている。アジア・太平洋における米軍基地の機能は、以上の3段階に分かれていると言えよう。

(2000年8月20日記)

(83) op. cit., *Air Force Magazine*, p99

(84) op. cit., *Directory of U. S. Military Bases Worldwide*, pp287-288

(85) ibid., p289

(86) ibid., p247

(87) 詳しくは福好昌治「米太平洋軍の戦略と作戦展開」『東アジア研究』、第24号、1999年5月、41～54ページを参照されたい。

